

コミキヤン 業務継続計画（BCP）研修

「大地震時に、利用者と施設職員、地域住民を守るために」
2023年8月23日（於）吹田市立内本町コミュニティセンター

吹田の内本町コミキヤンの業務継続計画（BCP）研修がありました。「災害は必ずやつてくる」その時「誰が逃げろと伝えられたか」（東日本大震災避難支援アンケートより）阪神淡路大地震や東日本大震災、今回のコロナ感染症の経験などから、どうすればその安全に逃げる「避難行動」ができる、「いがにその後すぐの「避難生活」を送ることができるのが、どうやつてこれまでの「日常生活」を取り戻すことができるのか。専門の講師の先生をお招きして、福祉施設の業務継続計画（BCP）策定の勉強会を大災害を例に研修をすすめました。研修テーマは「大地震災害に利用者と福祉施設職員、

題し、「講演のあと参加者によるグループディスカッショントの意見交換や、講師の先生から「その時、逃げろ！」と伝えられていたら、助けられた命が沢山ある、地域の福祉施設職員はそれを伝える立場にある」など職員の身の安全を図りながら、利用者・地域を守れる計画作りに、熱の入った研修が行われました。まずは意識づけと、その時に行動できる事前準備の策定から始め、これまでの机上の避難計画ではない実効性のある対策を次回研修（10／11実施）までに考える事になりました。

これまで以上の理解とご協力で切り抜けていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。（牧野篤子・「ミキヤン理事長」）

対面方式・講演・グループワーク

「**大地震時に、利用者と施設職員、地域住民を守るために**」

＜講師＞
福祉防災コミュニティ協会
福祉防災上級コーチ
湯井 恵美子 先生



第146号

大阪市東淀川区
上新庄2-1-40

TEL : 06-4862-6057
<http://www.communitycampus.jp/>

コミキャン編集委員会
発行者
社会福祉法人
コミュニティキャンパス

コミキヤン新聞に掲載された情報(写真等)の著作権・肖像権は全て当該メンバーさんの保護者の方々及び社会福祉法人コミュニティキャンパスに帰属し、無断でこれを複製・利用することを固く禁じます。



撮津「ミキヤンが、4年ぶり開催の『吹田ええもんフェスタ』に参加しました

▼ 10月14日（土）15日
（日）・イズミヤSC千
里丘店で4年ぶりに『第
9回・吹田ええもんフェ
スタ』が開催されました。
吹田市の各事業所が協
力して作り上げる大イベ
ント!!

今回実行委員として準備
段階から参加しましたが、
他法人の職員さんとも人々
にお会いして楽しく取り
組ませていただきました。
この4年間で授産製品
も様変わりし、利用者さ
んの高齢化などで授産そ
だけの商品が集まるカド
キドキしながら当日を迎
えましたが、いざ蓋をあ
けてみると、たくさん
授産製品が勢ぞろい！

まわいにアリゴーティキヤ
ワンバス職員も協力しての
一大イベントとなりました。
コニキヤンの利用者さん
やご家族の皆さんもたくさん
来て下さり、久々の
開催を喜んで、たくさん
お買い上げいただきまし
た。当日、あ越しくださった
皆様、本当にありがとうございました。

大人気すいたん



シが、4年ぶり開
もんフェスタ』に

あかげ今まで、この2日間の売り上げは、過去最高のものとなり、大成功を収めることができました。しかしまた、来年の開催を楽しみに、もつと『ええもん』で頑張れるようになります。また1年頑張ろう!!と新たにいたしました。(浜松町ミニキンギヤン・さん談)



摂津コミキャンが
「第3回さくらフェスタ」に参加しました



りにある
さくらカフェさん主
催の『さくらフェス
タ』に参加させてい
ただきました。

(飛ばされてしまつう
テントもあつました)
肌寒い一日でしたが、
参加した利用者さん
はいつもと変わらず
元気に販売してくれ
ました。
ほこほこ亭からフル-
ツ飴、摂津「ミキヤ
ンカラ」は雑貨に焼き
菓子、茨木「ミキヤ
ン」も焼き菓子を出品。

う立地もあり、よく売れました。他の販売ブースをのぞいたり買い物したり・・・利用者さんにとっても楽しい日となりました。



社会福祉法人「そうそうの杜」(大阪市城東区)との 他法人見学交流会が実現 2023年8月8日

場所:社会福祉法人そうそうの杜(大阪市城東区)本部ほか「鳴野駅」周辺12カ所
協力:社会福祉法人そうそうの杜



大阪市城東区で創業（平成7年～）の、社会福祉法人そうそつの杜（理事長荒川輝男さん）のご厚意により現地見学会が実現、情報交換と交流を深めました。当法人からは、牧野理事長、ライブハウスUNO秋田顧問、就労総合センター小村サービス管理責任者、柳谷理事が参加、運営や経営規模の共通点が多いこの法人、3年に及ぶコロナ禍をどのようにして切り抜けたのか、経営的な立場からの意見交換がありました。

双方の全般的な課題は、「福祉人材の確保」「運転資金」「地域連携」のほか、国が進める大規模災害時の「業務継続計画（BCP）」の策定についてもお聞きしています。これは、適切な避難と、その避難生活にあっても利用者への継続的支援



が短期間で復旧できる「方針と体制」や「マニュアル」を事前に準備して実際に訓練しておくことが求められるものですが、この法人では東日本大震災の被災地において復興支援ボランティアを行い、肌で災害状況を感じてあらえることがから防災意識も高く、利用者、職員全員分の「ヘルメット」を各施設の手の届くところ



「他の施設との交流から学ぶことを、利用者へのサービス向上や支援力の強化を進めたい」とコメント。参加したい職員からは、「各事業所間の関わりが深いと感じました。共に活動したり、活動内容の共有、障害がいや疾患の勉強会などを実践していることが素晴らしいと思いました。（白井支援員）と感想が寄せられました。

長の荒川さん、理事長の荒川さん、真頼さん。ありがとうございました。これからもうどうぞよろしく。（ヨミキヤン理事・柳谷さん談）

は醸成し防災の意識作りを日常的にされているのが印象的でした。

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

ト土の

けがやせ

李本寧

即成の

A colorful sign for "Ice Cream" featuring various ice cream cones and the Japanese text "アイスクリーム".

100円



コミキヤンのライブハウス ウノ・ア・オトロ

スペイン語で「違いを認め合う」の意味



▼9月16日の土曜、ウノアオトロでの長野たかしさんライブに行くました。お店に入ると、溢れんばら空いの客さんで、何とか空いた席を見つけて座る。どんどんお客様が来るので、折り畳み椅子が追加された。フリップが始まると、ステージには長野さんとあやこちゃんに、レコードデイングで馴染みのサポートメンバーや主催者の方は、長野さん並ぶ！ 座巻だ！ でも、

パフォーマンスの後で少し話をしたら、長野さんともライブでご縁ができるたという。ご縁は何処にでもある。それを見つけられるか見逃すかは、運だと思う。

2部では、オフクロの大好きなザベスちゃんの人形劇に、みんなは没入もつ、ザベスちゃんが話してるとちにしか見えない。長野さんは極めて自然体で、ザベスちゃんと掛け合いで漫才のようにやり取りする。

む。そのボリュームたっぷりのあやこさんの声は、ハーリーがあり美しく響く。シンソンによつてトーンを変えて、心の痛さや悔しさもキチ」と伝えてくる。
人の基本に立った視点で暮らしへを歌うこと、プロテストソングになる。理不尽な相手を罵る変わって、私達自身が潔正しく生き方をしますよ」とアドバイスする。しようとアドバイスする。しっかりとアドバイスする。しかし、護るべき暮らしへは頑として護り抜くこと美しい歌う。あやこさんの歌声に長野さんの歌声が歌い出る。バクバクの演奏も2人で収斂して一つになる。

良い言葉を手に入れた。

相手がくる。おなじくして、ともに幸せを目指す。□テストソングの真骨頂だ。穏やかで、ちよと鈍臭くてもよくて、焦らず人の暮らしの幸せを実現するため、当たり前に暮らす。

亡き親父や亡きオーフー口くらいのお客さんも楽しそうに笑う。気持ち良さげに笑う。これが強めの笑いこそが、命の力を上げる本物の愛免疫力上がる優しさだ。

